

市政ニュース

観光客や市民の利便性向上に公用車を有効活用 北近畿初！カーシェアリングがスタート

2月28日、豊岡市で、北近畿エリアで初めてのカーシェアリングの実証実験を開始しました。

カーシェアリングとは、24時間いつでも車両を無人で借りることができる事前登録制のレンタカーです。15分200円から利用でき、一般的なレンタカーに比べて、短時間での利用に適しています。観光客などの二次交通としての有効性や公用車の効率的な運用を検証します。

車は、市本庁舎駐車場に2台(公用車としても利用)、JR豊岡駅前駐車場に3台配置しています。

観光客や車を持たずに豊岡に赴任された方だけでなく、市民も利用できます。

※利用は有料で、会員登録やネットでの予約が必要です。

【利用例】

1 電車を利用してJR豊岡駅に着いた観光客などが、



▲JR豊岡駅前駐車場に配置するカーシェアリング車

バスやタクシーが合わなくても、カーシェアリングを利用して公園や玄武洞公園などの観光地をまわる。

2 家族が帰省したときやイベントなどで、自家用車と荷物運搬には不足があるとき、カーシェアリングで7人乗りの普通乗用車を利用する。

など、さまざまな用途や活用が考えられます。

カーシェアリングの詳細は、左記のサイトに掲載
<http://plus.timescar.jp/>

日本の救急救命「全日本メデイカルラリー」チャンピオンシップ」最優秀賞を受賞！

2月25日、JR東京駅構内で開催された「全日本メデイカルラリーチャンピオンシップ」で、関西地区代表として参加した、公立豊岡病院と豊岡市消防本部の編成チームが最優秀賞を受賞しました。

この大会は、災害現場でいかに迅速かつ正確な治療を行うことができるかを競うもので、地震や交通事故、生物兵器によるテロなど、さまざまな想定の下で実施されました。

3月5日、チームのメンバーで、同消防本部の救急救命士、狩野一道と植田友幸が中



▲(上段左から)前山博輝医師、小林誠一救急センター長、植田誠一救急士(下段左から)狩野誠一救急士、清水真美看護師、中嶋麻里医師

豊岡の地場産業「かばん」を支える訓練生、 鞆縫製者トレーニングセンター第二期生修了式を開催

2月28日、鞆縫製者トレーニングセンター(元町)で、第二期生の修了式が行われ、10人に修了証書が授与されました。

豊岡市鞆縫製者育成組合代表の木和田智成さんは「少しでも早く企業の戦力となれるよう頑張ってください」と、



▲訓練生代表で、松田智子さんがあいさつ

主な市政の動き

- 14日・インバウンド観光関連メディア取材来訪(15日)
- 15日・兵庫県北部合同企業説明会
- 15日・世界一田めになる学校フィールデイズin豊岡(16日)
- 17日・平成26年第1回豊岡市議会全員協議会
- 25日・豊岡市経営方針会議・京都府福知山市と災害時相互応援協定締結
- 全日本メデイカルラリーチャンピオンシップで公立豊岡病院・市消防本部編成チーム優勝
- 26日・豊岡市都市計画審議会・豊岡市新しい地域コミュニティのあり方検討委員会
- 28日・市議会定例会開会(3月27日)
- カーシェアリング事業開始
- 4日・市民安全確保推進会議・ハチゴロウの戸島湿地人工巣塔でコウノトリの産卵確認(7年連続)

「ワールドワークワークショップの現地学習」

「世界一田めになる学校・フィールデイズin豊岡」開催

2月15～16日、世界一田めになる学校フィールデイズが豊岡で開催されました。

『世界一田めになる学校』は、田んぼやそこで育まれる小さな命の大切さを学び、多くの人に伝えていこうと、夏休み期間の1日、東京大学で開校しています。

今回、その田んぼや命に対して、自分たちが何ができるのかを考え、行動するため『世界一田めになる学校・フィール

ルデイズin豊岡』を開催しました。

宮城県大崎市、新潟県佐渡市、豊岡市の子どもたち18人が参加しました。

初日は、最初にコウノトリを観察し、続いて冬水たんぼで生きものを調査。ワークショップでは、これまでに一人一人が行った田んぼのための行動を話し合い、自分の行動を見つめ直しました。二日目は、地域のより多くの人たち

に広げていくには、どうすれば良いかを考え、発表しました。そして、田んぼのためになる行動計画を作成しました。



▲田んぼで採れた生きものを探す

もしもの時、近隣市の強力な助っ人

京都府福知山市と災害時相互応援協定を締結

2月25日、豊岡市と京都府福知山市は、災害時相互応援協定を締結しました。

平成25年9月の台風18号で被災した福知山市を支援した縁で、今回の協定締結となりました。

豊岡市役所で行われた調印式には、福知山市からは、松山正治福知山市長、同市議会の田淵裕二総務委員長等が出席。豊岡市議会の野口逸敏議

長と田淵総務委員長の立会いのもと、中貝市長と松山市長が協定書に調印しました。

中貝市長は「互いに大きな災害を経験し、つらさも知っている。補完し合いながら、市民の安全安心を守っていき

たい」とあいさつしました。松山市長は「台風18号災害の際の支援に大変感謝している。今後は、日頃から文化・スポーツなど、さまざまな分

野で交流を行いたい」と、話していました。



▲(左から)野口議長、中貝市長、松山市長、田淵総務委員長

中貝市長の徒然日記 ⑦

あれから3年

あの日、津波は福島県いわき市立豊岡中学校も襲いました。体育館にあったピアノも泥とがれきに埋もれました。自衛隊員がそれを見つけ、「ひよっとしたら鳴るのではないか。校歌を歌ってもらえればうれしい」と、壊さずに体育館の中央に残して帰任しました。塩分を含んだ泥と悪臭に包まれていたピアノは、地元の調律師によつて懸命の修復作業が続けられ、よみがえりました。

3月2日、そのピアノと普天間かおりさんのコンサートが豊岡でありました。会場は感動に包まれました。普天間さんの名曲「守りたいもの」はコウノトリの誕生から巣立ちまでの映像と共にコウノトリ文化館で流されています。震災のとき、普天間さんは、ラジオ福島で放送中でした。2月26日。中澤宗幸・きみ子夫妻の講演とコンサートが豊岡地区公民館で開かれました。宗幸さんは世界的なヴァイオ

リンドクターです。津波のがれきをテレビで見えられたヴァイオリン奏者のきみ子さんの一言。「あれ、元はがれきじゃなかったのでしょうか？」

適した木が探し出しされ、ヴァイオリンになりました。奇跡の一本松も使われました。同時に作られたヴィオラは、皇太子さまが演奏されたことでもよく知られています。津波ヴァイオリンの演奏と講演は、私たちの心にしみました。ピアノとヴァイオリンに込められた願い。その願いの美しさが、人々の心を打ちます。被災地からは「忘れないで」というメッセージが伝わってきます。本当は、日々の事柄に紛れて、忘れずにいることは困難です。が、思い出すことなら、できます。

2月13日。出張で仙台に行きました。帰り道、空港のロビーにいと妻からメールが入りました。「今日は仙台空港ね。市民を代表して手を合わせてあげてね」そうしました。空港の近くで、豊岡の若い命が津波にさらわれたのでした。